

津市立ハッ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 1. 23

N058

箱根駅伝に思ふ



私は毎年、年始の箱根駅伝をテレビで見て、懸命に走っている選手一人ひとりを応援しています。抜いたり抜かれたり、また、抜き返したり…と母校の名誉をかけて様々なドラマが毎年見られます。“〇〇大学が優勝”や“〇〇大学がシード権を得た”などと報道をされますが、私は選手一人ひとりやその選手を支えるスタッフの思いを知ることで自分自身の考えの甘さに気づかされることも多いです。「箱根路を わが超え来れば 伊豆の海や 沖の小島に 波の寄る見ゆ」これは鎌倉幕府3代将軍 源実朝の句です。箱根の山は天下の剣とよばれ、東海道の難所です。たとえ将軍といってもその山を越えることは大変だったことでしょう。その山を越えた時に目に入った伊豆の海や小島に寄せる白波がとても美しく目に飛び込んできてこの句を詠んだことでしょう。苦しい思いをし、その難関を乗り越えた人にしか分からない感動があるのだと思います。”箱根駅伝”は駅伝部の学生にとってあこがれであり、目標であるでしょう。参加に向けて全国の大学が厳しい練習を行い、予選を勝ち抜きます。有名大学となれば出場資格を得たとしても自分が選手で出場できるとは限りません。今回も4年生となって最初で最後の1回切りの駅伝として出場した選手、4年生で選手に選ばれず、給水担当として選手を支えた選手、選手として出場したものの自分の実力が出し切れず、悔しい結果となった選手もいました。

しかし、箱根駅伝に出られなかった大学や選手・スタッフをも含めて駅伝に挑戦したすべての学生に私は大きな賛嘆の拍手を送りたいと思います。厳しい練習を乗り越えたすべての選手が“伊豆の海や 沖の小島に 波の寄る見ゆ”ではないでしょうか